



すげさき しみこ 杉崎 文子さん

(鶴馬在住)

富士見市精神障害者
家族会「歩みの会」
会長

こころの病について

家族の中で誰かの言動が「なにかおかしい」と感じたら、皆さんはどう対処されるでしょうか。こころの病は中途障がいではなくて、はつきり発症しないとわかりにくい病気です。私は、今は関心のない方々にも、この病気についての正しい知識と対応に少しでも関心を持っていただけたらと思っています。

ことわざに「転ばぬ先の杖」とありますが、いつ自分たちが当事者あるいはその家族になるかは誰にもわかりません。その時になって慌てないように、できるだけのことを知っておいて欲しいのです。



もし身近な方に発症の疑いがあつたら、けつして隠し通そうとせず、まずは専門医療機関などにできるだけ早期に相談してください。誰でも発症する可能性があります。

私たちが家族会は毎月第1木曜日に市民福祉活動センターぱれつとで定例会を開催しています。午後は当事者も一緒に小物作りなどを行っています。安心して何でも話せる会で、悩み事解決のヒントを得ることもできるかもしれません。関心のある方は、一度当会までお問い合わせください。

歴史・史・探・訪

ふじみ・発見!

35

市内の発掘調査⑦

【上内手遺跡 第9地点】

上内手遺跡は、新河岸川にかかる伊佐島橋や新伊佐島橋の東側の自然堤防上に位置し、上南畑から東大久保に南北にまたがって広がっています。現在、市内で低地に分布する遺跡は、確認されている限りでは上内手遺跡のほかに伊佐島遺跡・山形遺跡・難波田氏館跡の4遺跡のみです。これまでの発掘調査で上内手遺跡では、古墳時代前期の住居跡や溝跡、平安時代の住居跡、中世以降の井戸跡や溝跡、土坑などが確認されています。

今回、紹介する第9地点は伊佐島橋のたもとに位置し、平成26年1月末〜2月にかけて発掘調査が行われました。低地の遺跡は土が粘土質であるため調査はとて困難でしたが、結果と



焼けた状態で確認された住居跡



確認された炭化材

して、弥生時代末〜古墳時代前期の住居跡6軒、中世以降の井戸跡や溝跡、土坑、火葬墓などが発見されました。確認された6軒の住居跡のうち5軒から柱などが焼けたと思われる炭化材が出土しました。土が湿気を多く含んでいるため、炭化材は比較的良好な状態で残っていました。これらの住居跡は、その原因は分かりませんが火災で焼け落ちたか、あるいはほかの居住地へ移るために燃やした場合が考えられます。今の段階では判断が難しいですが、いずれにしても約1千200㎡の調査区域に密集した住居のほとんどが焼けていることは、市内の遺跡ではこれまでに例がなく特徴的です。

ほかにも中世以降の火葬墓では、掘り込まれた穴の中に木炭や焼けて粉々になった動物の骨が密集した状態で確認されています。低地の遺跡は台地上の遺跡とは違い、通常なら残りにくいものまで確認される場合があるため、非常に興味深いところです。

問合せ／生涯学習課

☎ 049-256-7023

